月刊
新翔タイムズ
第17号
新翔タイムズ編集室
発行・南紀州新聞社

開かれた学校づくりの推進
新翔高で第2回学校評議員会

学校評議員会を開催した

第2回学校評議員会を開催し、評議員の皆さんによる校内の施設見学、授業参観の後、協議が行われた。

同会の目的は、学校運営などについて、校外の有識者から幅広く意見を聞き、同校教育の改善、充実に資するとともに、地域や社会に開かれた学校づくりを一層推進し、学校が家庭や地域と連携、協力しながら特色ある教育活動を展開することが狙い。

七瀧校長は「今年の就職状況は、たいへん厳しい中、本校の内定率は77％（11月18日現在）と健闘している。これも地域の方々の協力のおかげ。さらに地域に根ざした学校を目指しさまざまな意見提言をお願いしたい」とあいさつした。

その後協議が行われ、地域にとけ込むためには、学校から先にとけ込む努力が必要。そのためには、学校改革・先生の意識改革が大事など活発な意見が出された。

読み語りボランティア
宇久井小・太地小で

宇久井小学校2年生を対象に、3人の生徒が読み語りボランティアを行った。この日は本来参加すべき生徒が急きょ変更になり、直前に決まったメンバーでの読み語りとなったが、落ち着いた発表に、児童も静かに聞き入っていた。最後に行った手遊びも、持ち前の明るさと度胸で児童をひきつけ、大盛況のままに幕を閉じた。発表後は読み語りの先生にもほめてもらい、さらに上達するようにと細かい点の指導を受けた。

また太地小学校で1、2年生と7人のボランティア生徒が交流活動を行った。1年生には、『ぐりとぐらのおきゃくさま』などの絵本、紙芝居『さるかに合戦』を、2年生には『でこちゃん』、『しろくまのペーター』など四冊の絵本を読み語った。児童たちは常に真剣に聞いてくれたが、ときにはその話に参加して声をあげたりと、楽しく心豊かな45分を過ごした。ボランティアの一人は、「自分の将来への良い経験になったし、何より楽しんでもらえたことがうれしかった」と話した。

『ぐりとぐらのおきゃくさま』を読み語った

家庭科部がかご作り
老保施設「みさき」で交流

家庭科部（部員24人）の生徒9人がさきごろ、新宮市蜂伏にある老人保健施設「みさき」を訪問し、牛乳パックを再利用した紙テープ（エコテープ）を使ったかご作りで交流した。

今年の文化祭の手芸作品の展示に、エコテープでのカバン作りに取り組み、その成果を何かに役立てたいと思っていたところ、同施設で利用者がこの一年間に製作した作品を集めて展示する「作品展」の話を聞き、お役に立てないかと企画した。

材料は文化祭で販売したクッキーの収益金を利用することにし、高齢者の方が手作り感を味わいながらも簡単にできるように、底の部分は生徒が放課後や昼休みの時間を利用し事前に製作した。普段高齢者とふれあう機会が少ないので、どういう風に説明したらわかりやすいか、喜んでもらえるか、部内でも話し合い、施設の方とも相談し当日に臨んだ。

3年生4人は30分前に到着し準備担当、2年生5人は、部屋に迎えに行き車いすを誘導し、始まる前からアットホームな雰囲気だった。部長は笑顔であいさつ、ゆっくりやさしく作り方を説明し、始まった。生徒らは、編み合わせる手順を実践しながら丁寧に指導。最後のリボンレースの飾り付けの時には「何色好き?」「こんなんかわいいよ」と話しながら仕上げた。2年生の生徒が「おばあちゃん、ねぇ、何入れるん?」と聞くと、「うれしいよ、ありがたいよ」とその生徒に拝むように手をあわせる光景がみられた。人は教えることによってもっとも学ぶといわれるが、終了後生徒たちは、喜んでもらえてよかった、行ってよかった、貴重な体験ができた、と口々に語った。2時間ほどの講習会だったが、参加者11人全員完成し、無事終了した。

紙テープのかご作りで交流した

◆先生の紹介◆
加藤大善先生（26）

今年で勤務2年目を迎えました。1年4組の副担任、担当教科は保健体育で、クラブ活動は剣道部の顧問としてお世話になっております。

出身は橋本市なので、今まで新宮市に来たことがなかったのですが、新宮の良さや素晴らしさを感じながら先輩の先生方や生徒たちに支えられ、充実した毎日を過ごしています。新宮の土地は年間を通して気候がとても温暖であり、山や海そして川に囲まれ自然豊かなところで、人柄もおおらかで優しい人が多い町であると感じており、非常に住み良い土地だと思います。

本校の生徒は素直で明るく元気があり、友達を大切にする優しい心を持っていると思います。そして生徒たちは毎日勉強に、クラブ活動に全力で一生懸命頑張っています。その中で、私自身が勉強になることが多く、これからも生徒たちとともにさまざまな面で成長していきたいと考えています。

私は小学校1年生より今まで二十数年間、剣道一筋で武道を続けてきました。それは決して楽なものではなく、途中で挫折しようと思ったことも多々ありました。そして苦しいことに耐え忍び、そして両親をはじめ、先生方や周りの方々に支えていただいたおかげで、今の私があるのだと思っています。この経験は社会人となった今、非常に大切で常日ごろから心掛けていかないといけないことだと気付き、学校生活やクラブ活動を通じて耐え忍ぶ大切さ、日々人に感謝をする心、努力を惜しまないということを、一人でも多くの生徒に伝えていけるように頑張っております。

本校は、自分の可能性を最大限に伸ばせる素晴らしい設備が整っています。高校生活の三年間は、アッという間に過ぎてしまいます。高校三年間で目標を持ち、努力を継続し、決して楽で安易な道を選ばず、自分に厳しく困難な道を選び、心身ともにたくましく、この新宮の地のように大らかに成長してほしいと願います。まだまだ至らない点が多く、日々努力し頑張っていきたいと思いますので、これからもよろしくお願い致します。

風水害時の対応を学ぶ
「熊野と防災」で新宮市出前講座

2年生の選択科目「熊野と防災」で、8人が新宮市の出前講座を受講した。講師は新宮市役所防災対策課の福嶋律文さんと加子坂嘉隆さんで「風水害時の対応と避難所の開設」と題して講義が行われた。

10月の台風18号に対する新宮市の事前対応や被害状況、避難所の開設や物品の確保についての取り組みを学習した。

また現在の自主防災組織の組織率（65・7％）を上げていく必要性、防災に対する自己意識を高めるとともに最悪な場合を考えた行動が大切なこと、自分の住んでいる地域の安全性や避難所の確認の必要性などについて認識を深めた。

小林莉奈さんが受賞
税に関する高校生の作文表彰

小林莉奈さん

新宮税務署（松下史生署長）は17日に本校を訪れ、「税に関する高校生の作文」で社団法人新宮納税協会会長賞を受賞した小林莉奈さん（3年5組）に賞状を渡した。

次代を担う高校生に税や財政に対する考え方をより深めてもらおうと毎年募集している。今年は管内の5校から571編が寄せられ、8人が入賞。松下署長が各校を訪問し、生徒一人一人に賞状と記念品を手渡した。

小林さんは「賞をいただきびっくりしました。うれしいです」と喜んでいた。

商業教育フェスタに参加
2年生マーケティング選択生

2年生ビジネス系列の授業「マーケティング」選択生のうち3人がこのほど、和歌山市のぶらくり丁商店街で行われた第4回商業教育フェスタに参加した。

同フェスタは、商業教育に対する理解を深めてもらおうと、商業科目を取り入れている県内16の高校が参加しているイベントで、今年で4回目になる。同商店街では販売実習、近くの複合商業施設フォルテワジマでは、商業美術展などが行われた。

生徒らは地元で仕入れた新鮮な伊勢エビ・干物・梅干し・めはりを販売し、午後4時ごろには、ほぼすべての商品を完売した。

法被姿で販売する生徒ら

観光科体験学習

道普請を行う生徒ら

観光系科目を選択している生徒33人（2年生13人、3年生20人）が、次世代育成事業の一環として、田辺市本宮町の世界遺産熊野本宮館で熊野古道学習を実施した。県世界遺産センターの職員からの世界遺産―文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」についての講義を受け、熊野古道ウォーク（三軒茶屋付近～熊野本宮大社）と道普請を行った。

2年生の生徒にとっては、5月に続き2度目の道普請であり、「初回よりも、二回目の方が、より熊野古道の大切さを実感した」という。

今回の熊野古道体験学習は、文化遺産として熊野古道を保全していく意義を学ぶとともに、観光資源の活用と保全について学習を深めることができた。

クラブ紹介
柔道部

柔道部（門林三千生監督）は、3年生2人、2年生3人、1年生1人、マネージャーの2年生2人の計8人で活動している。

活動の内容は、月曜日から土曜日まで本校の武道場にて練習を行っている。紀南地方の中学校には柔道部があまりなく、高校から柔道を始めた生徒ばかりである。その中でも、練習に励みながら各大会や昇段審査を受験し経験を積んでいる。柔道の練習を通して、礼儀作法や言葉遣い、相手を思いやる気持ち、夢を持つ大切さ、それに向かって努力することの大切さを学んでいる。

県内での実力はまだまだ未熟ですが、選手のみんなは一生懸命になって練習に取り組んでいます。県高校新人大会においては、一つでも多く勝てるように頑張ってきたいと思いますので、これからもご声援をよろしくお願いします。